

令和7年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第Ⅰ回重心・要医療的ケア連絡会	参加者数	40 人	会場	伊那養護学校 寄宿舍ひまわりルーム
	日時	令和 7 年7月4日(金) 14:00～16:00				
主 テ ー マ	(1) 今年度の活動計画 (2) 研修 (3) 意見交換 (4) その他連絡					
	(1) 今年度の活動計画 昨年度より地域の看護師同士の交流の必要性が確認されたため、本年度も学習会を通じて意見交換や課題の共有の場を設けていく。また、引き続き社会資源の共有と状況把握、ニーズに応じて各関係機関へ協力依頼を行う。 (2) 【研修】重心・要医療的ケア児が地域で生活するために 講師:上伊那生協病院 小児科医師 ◇医療型ショートステイ 家族支援のため、社会で医ケア児を守るためにも必要な制度。 実際に小児病棟の空床や老健にて、医療型ショートステイを実施している施設がある。 短期間の利用でも日中のリフレッシュ活動や交流の場として活用でき、児も有意義な経験となる。 ◇小児訪問診療 在宅医療が必要な児は年々増加している。(20 年前より在宅酸素 1.6 倍、人工呼吸器 3 倍) 通院には多くの医療器具や家族の付き添いが伴うため、大きな負担となっている。 成長と共に移動も困難になるため、訪問診療の必要性が高まっている。 こども病院は 2019 年に訪問診療センターを設立し、通院困難な家庭へ訪問診療を行う。(半径 6 km内) ◇日本版ネウボラ 「ネウボラ」とは、フィンランド発祥の子育て支援サービス。妊娠期から就学前まで切れ目のない支援を提供。 現在、日本の子育て支援制度は法的に整備されていても支援内容が断続的に感じる。 もし助産師が産後も引き続き母子に介入できれば継続的な支援体制が期待できる。 助産師は妊娠中から母子の状態や家庭環境を理解しているため、母も安心して相談できる。 産後ケア事業や母子特化型訪問看護により、助産師による産後支援が可能。 松川村に産後ケア専門の助産院があり、産後ケア入院の利用者数は年々増加している。 (3) 意見交換 各事業所より講義の感想や意見交換を行う。 施設側の人員不足、医ケア児・小児の経験が豊富な看護師が不足している等、意見があった。 (4) その他連絡 医療的ケア児・者の社会資源の更新					
ま と め	医療的ケア児を支えるための地域での取り組みについて、各地で実際に行われている好事例を共有できた。 各事業所より意見交換を行うことで横のつながりを持つ機会となった。					
次 回	11 月 21 日(金)10 時～12 時 場所:伊那養護学校					